449 Tc-99mHSA RI-lymphographyを用いた下肢リンパ流の半定量的動態観察の臨床応用

新井　功、玉城　厚、中村良一、武安宣明、
渡部純郎、長谷弘記、多比良清、広田彰男、
境敏　秀、矢吹　壮、町井　潔（東邦大　三内）
髙橋　努、酒井　健、星野光雄（同　核医学）

Tc-99mHSA皮下投与法によるRI-lymphographyを用いた下肢リンパ流の半定量的動態観察の有用性については既に本学会にて報告した。今回は温熱負荷を加える事により、今まで比較定量する事が困難であったリンパ流の減少していると考えられる症例に関しても比較検討が可能となり、若干の知見を得たので報告する。

健常人18例、糖尿病患者24例に対し4mCi約0.1mlのTc-99mHSAを皮下投与し、大腿部にて5秒間隔で40分間連続スキャンを行った。得られた画像をcomputer処理、解析し、時間放射能曲線の変化よりリンパ流量を半定量した。又、RI注入10分後より35～45℃の温湯にて下腿部に温熱負荷を加えた。その結果、健常人に比較して糖尿病患者ではリンパ流は有意に減少していた。糖尿病患者では浮腫を見る事が多く、その原因としては一般的に低蛋白血症が主と考えられている。しかし今回の結果からリンパ管機能の低下もその一因として示唆された。又、Tc-99mHSA皮下投与によるRI-Lymphographyはリンパ管機能の臨床的評価に有用と考えられる。

450 Ga－67とTc－99mレニウムコロイドを用いての腫瘍リンパ節同時シンチ：悪性リンパ腫について

小沢　勝，小林　裕，中坊俊雅，堀内博彦，丸尾直幸，近藤元治（京医大　一内）岡本邦雄，山下正人（京医大　放）三木昌宏（京大　一内）

悪性リンパ腫の画像診断は臨床上有用であり，病変部はGa腫瘍シンチで集積像として，またTc－Reリンパ節シンチで欠損所見として描出される。しかしGaシンチでは，炎症部にも集積像がみられ，またTc-Reシンチではanomalyでも欠損所見が認められるために，腫瘍病変との鑑別が時に困難である。そこで両者を同時に施行すれば相補的診断が可能になると考えてその臨床的有用性を検討した。悪性リンパ腫の病変部はGa像で集積像，Tc像で単独シンチと同様の所見が得られ相補的診断が可能であった。またGa陰性の悪性リンパ腫や節外病変，縦隔病変の場合にも有用であった。癌のリンパ節転移のTc像は病変部が限局性で末梢のリンパのうっ滞がみられることによって悪性リンパ腫との鑑別が可能であった。以上より腫瘍リンパ節シンチは単独シンチより相補的に適確に病変部を把握できるのみならず，リンパ管造影で描出不可能な節外病変をも描出しうる利点も認められ，病期決定や治療計画上も有用と考えられた。

Presented by Medical*Online